

## シラバス参照

科目名	フレッシュマンセミナー(薬学)B
配当年次	1年次
開講期間	後期
単位数	1
担当教員	上田 秀雄(ウエダ ヒデオ) 井上 裕(イノウエ ユタカ) 木村 聡一郎(キムラ ソウイチロウ) 木村 光利(キムラ ミツシ)
期間・曜日・時限・教室	後期 水曜日 3時限 10-202

※	
授業の目的・目標	城西大学薬学部では、人々の主観的QOLを高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援できる人材育成を目指しており、薬学科では、将来、さまざまな医療者や介護・福祉スタッフと連携しながら地域社会に貢献できるようになることを目指します。フレッシュマンセミナー(薬学)Ⅱでは、過去に起こった薬害や現在社会問題となっている薬物乱用などの諸問題、将来の活躍の場での薬剤師や薬学出身者への期待、患者やその家族の思い、QOL向上に対して様々な職種が連携することの重要性を学び、将来の自分自身の活躍する姿を想像したときに、薬学生として取り組むべき事柄について考え、実践するための動機付けに繋がることを目標としています。(知識・理解)(汎用的技能)(態度・志向性)
準備学習等の指示	基本的に、講演会とグループ討議を組み合わせた授業スタイルとしているため、正規の授業時間外も利用した変則的な実施形態になります。最初に配付するスケジュールをよく確認してください。実施回ごとのグループ分けなどを掲示またはwebclassを利用して伝えるので、自分自身で必ず確認してください。また、薬科学科および医療栄養学科の1年生との合同授業も開催します。自分の所属学科についてはもちろんですが、薬科学科と医療栄養学科の目指す教育や人材育成の考え方についても前もって調査し、合同授業でのグループ討議の際などに活発
講義スケジュール	<p>1 日本の医療システムの中で、人々の健康サポートに対して薬剤師、薬科学技術者、臨床検査技師、管理栄養士などに期待されることを理解できる。</p> <p>2 日本の医療システムの中で、人々の健康サポートに対して薬剤師、薬科学技術者、臨床検査技師、管理栄養士などに期待されることを理解し、それを踏まえて自分たちがどういう取り組みをしていくべきかについて討議できる。</p> <p>3 薬害など健康被害を受けた当事者の思いを理解できる。</p> <p>4 薬害など健康被害を受けた当事者の思いを踏まえ、薬害の根絶および薬による健康被害を最小化するためにどのような取り組みができるかを討議できる。</p> <p>5 薬物乱用に関する社会問題の概要を理解できる。</p> <p>6 薬物乱用に関する社会問題の概要を踏まえ、薬物乱用を防止するための啓蒙活動の主体を担う薬剤師の活動について討議できる。</p> <p>7 医療施設で活躍する薬剤師から、実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどについて理解できる。</p> <p>8 実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどに基づいて、患者や生活者の健康をサポートするための薬剤師の姿について討議できる。</p> <p>9 企業などで活躍する薬剤師および薬学出身者の講演を拝聴し、薬学出身者が幅広い分野で活躍できることを理解できる。その時点での職業人としての自分の将来像をイメージし、そのイメージについての理由付けを考えることができる。</p> <p>10 企業などで活躍する薬剤師および薬学出身者の講演を拝聴し、薬学出身者が幅広い分野で活躍できることを理解できる。その時点での職業人としての自分の将来像をイメージし、そのイメージについての理由付けを考えることができる。</p> <p>11 重大な疾病を患っている患者さんの講演を拝聴し、患者やその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解できる。</p> <p>12 重大な疾病を患っている患者さんの治療に直接携わってきた医師の講演を拝聴し、患者やその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解できる。</p>

	<p>13 重大な疾病を患っている患者さんやその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解したうえで、医療人・薬剤師として患者やその家族の思いに寄り添うために必要なことは何かについて討議できる。</p> <p>14 医療や介護における”ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を理解できる。</p> <p>15 医療や介護における”ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を踏まえ、生活者に寄り添った医療人としての連携の在り方を討議できる。</p>
教科書	必要に応じてプリントを配布する
参考文献	IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携(中央法規) 埼玉県立大学編集
授業の方法	講演会、グループ討議
成績評価方法	授業への参加状況(60%)、課題レポート(30%)、グループワークプロダクト(10%)により総合評価します。
オフィスアワー	<p>上田(水曜日17時～19時)</p> <p>木村光(土曜日13時～15時(講義時間、会議時間を除く))</p> <p>木村聡(木曜日13時～19時(薬学実習による不在の場合あり))</p>
居室	<p>上田(21-715)</p> <p>木村光(21-620)</p> <p>木村聡(21-712/718)</p>
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	